

令和2(2020)年度水稻生育診断予測事業速報 No. 2

(コシヒカリ、とちぎの星 6月8日調査結果)

令和2(2020)年6月10日

栃木県農政部経営技術課

- ・5月初旬移植のコシヒカリは平年に比べ2日程度進んでいる。
- ・必要茎数がおおむね確保されており、速やかに間断かん水を開始する。5月中旬以降の移植は、日中止水（浅水）として分けつ発生を促進する。
- ・イネ縞葉枯病の防除を行い、いもち病の発生に注意する。

1 気象概況<<5月下旬～6月第一半旬（宇都宮）>>

平均気温は5月下旬が平年より0.7℃高く、6月第1半旬は平年より0.5℃高かった。日照時間は5月下旬が平年比86%と少なく、6月第1半旬は106%となった。特に5月第5半旬の日照時間は、平年比53%と少なくなった。降水量は5月26日に大雨があったが、期間を通して平年並みであった。

2 調査結果

(1) コシヒカリ（農業試験場調査結果）（表1-2）

草丈は高く（平年比116%）、茎数は多く（144%）、葉齢は0.3葉多く、葉色は0.3淡い。葉齢から判断して、生育は平年より2日程度進んでいると考えられる。生育診断値（葉色×茎数）は平年比133%と大きい。

現地調査ほ場は茎数が230～649本/m²とバラツキが大きい。

イネミズゾウムシは10カ所中7カ所、イネドロオイムシは3カ所、イネヒメハモグリバエの発生は確認されていない。

(2) とちぎの星（農業試験場調査結果）（表1-2）

草丈は38.2cmで平年比110%と高く、茎数は641本/m²で平年比127%と多い。

葉齢は7.9葉で平年より0.1葉少なく、葉齢から判断すると、生育は平年並と考えられる。葉色は3.8で平年より0.8淡い。生育診断値（葉色×茎数）は2,453で平年比106%と大きい。

現地調査ほ場は5月中下旬移植のため茎数が125～340本/m²とまだ少ない。

イネミズゾウムシは5カ所中3カ所、イネドロオイムシは2カ所、イネヒメハモグリバエの発生は確認されていない。

3 技術対策

気象庁地球環境・海洋部発表（令和2年6月4日）の「関東甲信地方 1か月予報」（6月6日から7月5日までの天候見通し）では、“平年と同様に曇りや雨の日が多い”と予想されている。気温は平年より高い確率が70%、降水量は少ない確率が40%、日照時間は多い確率がともに40%である。天候不順にも対応できるよう、以下の点に注意して栽培管理を行う。

(1) 水管理

すでに必要茎数が確保されているほ場では、速やかに間断かん水を開始し、過剰分げつにならないよう留意する。茎数が確保されていないほ場では、引き続き、夜間かん水、日中止水（浅水）とし、分げつ発生を促進する。

過繁茂になると籾数過剰、登熟低下、白未熟粒の発生、食味低下を招きやすい。また、分げつが多く茎が細くなると、倒伏を助長するため、必要茎数が確保できしだい、速やかに間断かん水に移行することが重要である。

(2) 病害虫の防除

ア イネ縞葉枯病

「令和2（2020）年度 植物防疫ニュース（速報 No. 3）」（令和2（2020）年6月5日農業環境指導センター発表）では、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は6.1%（平年値6.8%）となっている。今後、高温の影響でヒメトビウンカが増加した場合イネ縞葉枯病の発生拡大懸念されることから、地域ぐるみでのヒメトビウンカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）を実施する。

イ いもち病（葉いもち）

いもち病は、25℃～28℃で湿度の高いむしむしする天候を好み、梅雨に入った6月から発生が多くなることから、常発地域、箱施用剤を使用していない地域では、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防除に努める。

なお、いもち病の防除は、発生前の予防剤（粒剤）施用が効果的である。また、いもち病の発生源となる取置き苗は早急に処分する。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」の御登録をお願いします！

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」の御登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから